

## 結果のまとめ

- UNSCEAR による推定甲状腺吸収線量は、理論的な計算による事故後 1 年間の外部被ばく線量 + 食品(水道を含む)からの甲状腺吸収線量 + 吸入被ばく線量 (mGy) の推定値である。
- UNSCEAR 2020 報告書による推定甲状腺吸収線量と甲状腺がん(疑いを含む)との関連については以下の通りであった。
  1. 先行検査(横断調査)において、甲状腺検査対象者全体の推定線量の分布に基づいて四分位に分類した解析では、第 1 四分位の群に比べて第 4 四分位の群で性・年齢・検査年度を調整したオッズ比が有意に低かった(資料 3-1 図 1)。また、線量が高くなるほど甲状腺がん(疑いを含む)発見率が低くなる関係(量反応関係)が認められた。
  2. 本格検査(検査 2 回目)(横断調査)において、甲状腺検査対象者全体の推定線量の分布に基づいて四分位に分類した解析では、第 1 四分位の群に比べて第 3 四分位の群で性・年齢を調整したオッズ比が有意に高かった(資料 3-1 図 2)。しかし性・年齢に加えて検査年度・検査間隔を調整することによりオッズ比は低下した(資料 3-1 図 2)。なお量反応関係は認められなかった。
  3. 本格検査(検査 3 回目)(横断調査)において、甲状腺検査対象者全体の推定線量の分布に基づいて四分位に分類した解析では、有意な関連は認められず、量反応関係も認められなかった。
  4. 本格検査(縦断調査)において、甲状腺検査対象者全体の推定線量の分布に基づいて四分位に分類した解析では、有意な関連は認められず、量反応関係も認められなかった。